

創造学報

Toyohashi Sozo University News



地域・職業教育・人間教育

2025.春号
VOL.51

- P1 **特集1 地域がキャンパスに!** 2024年度地域連携事業報告
市民大学トラム / 豊橋医療センター健康フェスタ
SOZOファミリー健康フェス / 豊鉄グループ感謝祭
- P3 **特集2 地域の未来を創造する大学** 青い空フェスティバル2024
防災フェス2024「防災と手話」 / 地域課題に挑戦!経営学部経営学科
- P5 基礎看護学実習 / 特定研修施設と連携講座 / スポーツ傷害予防教室
- P6 カレーの衝撃 / SDGs Do(ど)いいね / スマイルフラワー大作戦
- P7 山岳研究パネル展 / 明るい社会作り実践体験作文
#盛り上げ隊!とのんぼい語ろ / カラダ喜ぶ健康講座



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

2024年度、本学は、地域に開かれた大学として、地元企業や行政機関と連携・協力のもとに様々な事業を展開しました。専門性を生かした学生たちの活動は、広く地域へと広がり、地域の人たちとの交流を図る機会となり、学生たちの成長を促しました。

地域の健康を支える



市民大学トラムに 毎回100人以上が聴講

市民大学トラムは、豊橋市教育委員会と連携で実施され、毎回、学部学科の専門性を生かしたテーマで、地域の人たちが暮らしの中にかかえている問題解決に取り組んでいます。

2024年度は、5月6日に、保健医療学部理学療法学科の担当で行われました。理学療法学科の教授らが講師を務め「自分らしい暮らしをいつまでも…」を共通テーマに講演しました。

大学院健康科学研究科長の後藤勝正教授による「老化は止められるか？ 衰える筋肉とその対策」、小竹伴照教授による「人生100年時代～百寿者から学ぶ健康長寿」などをテーマに4講座が開かれました。毎回、100人以上の応募があり、大好評でした。



豊橋医療センターの 健康フェスタに参加

11月、国立病院機構豊橋医療センター（山下克也院長）で初開催された「行ってみよう！わくわく健康フェスタ」に、保健医療学部と短大部の学生有志が参加しました。地域の公的病院としての役割とその姿を地域の人たちに知ってもらうことを目的としたフェスタで、学生たちは、自分たちの専門分野につながるプログラムで、力を発揮しました。

院内には14のブースが設けられ、看護師や職員らが企画したゲームや展示、測定や体験会などが行われ、幼児教育・保育科や理学療法学科の学生たちは、院内コンサートに出演。クラリネット演奏や、ピアノ、ホルン演奏、ダンスを披露し、来場者を楽しませました。看護学科の学生たちは、AED体験コーナーで、同センターの看護師の皆さんとともに一般参加者の体験指導を行い、看護学生としての意識を高める貴重な体験となりました。



「SOZOファミリー健康フェス」 で地域の人たちを測定

地域の健康を支える活動の一環として11月17日（日）に豊川市のイオンモール豊川で、体力測定イベント「SOZOファミリー健康フェス」を開催しました。理学療法学科と看護学科の学生たちが各種検査機器を使って来場者の測定にあたりました。この日一日で、大人160人、子ども50人が来場し、身体機能や運動能力を測定。バイタルサイン、身長、筋力、体組成、ロコモ度テストなどから、希望する項目を測定。希望者には、本学教職員によるアドバイスなども行われました。

何十年ぶりかで体力測定をしたという女性は、「自分の今の状態を知る良い機会になった」と話し、両親と一緒に握力や足趾（そくし）筋力を測定した小学2年の女の子は、「自分の筋力に興味があったのでおもしろかった」と感想を述べていました。測定を担当した学生たちは、「健康や運動の必要性について家族で考える機会になればうれしい」と述べ、来場者に対応していました。





地域へ活動の場を広げる

地元企業や行政機関との連携・協力協定は、学生たちの活動の場を大学の外へと広げ、地域とのつながりを強めました。

「多様な学び」の実現に向けて、イオンモール豊川の協力を得て「SOZOファミリー健康フェス」をはじめとするさまざまな活動を展開しました。

幼児教育・保育科1年生によるSOZOふれあいフェス「和太鼓演奏と和太鼓体験」は、授業科目の表現学の

集大成として、イオンモール豊川に訪れた地域の親子を対象に実施。「子どもたちにとっての楽しい音」について考えて作った太鼓演奏を披露しました。

短期大学開設以来続いている幼児教育・保育科の学生による成果発表会「青い空コンサート」もイオンモール豊川のイオンホールに会場を変え、「青い空フェスティバル2024」と題して開催。経営学科と理学療法学科も参加し、これまでにない新しい形で実施。多くの親子でにぎわいました。

地域とつながる



12月には、看護学科生12年生有志が、クリスマスイベント「Chain of Smile」を開催。これまで毎年、学生たちの実習先の病院で実施してきましたが、今回は、「笑顔の連鎖をもっと広げよう」と、実習先に加え、初めてショッピングモールで開催しました。会場では、親子連れを中心に多くの来店客が足を止めて演奏を聴き、ワークショップにも参加し、学生たちのリードで楽しんでいる姿が見られました。



豊鉄グループ感謝祭に出展

豊橋鉄道との連携協定のもと、11月30日に開催された、豊鉄グループ感謝祭に参加。市内電車が停車する豊橋市の赤岩口車庫会場に、各学科の専門性を生かした体験ブースを出展しました。保健医療学部は「高齢者疑似体験」、経営学部は「親子で楽しむプログラミング体験」、短大部はオリジナル缶バッジづくりと「SDGsすごろく」を実施。学生たちの呼びかけに、多くの来場者が立ち寄り体験を楽しみました。



路面電車の運転体験がしたいと浜松市から父親と訪れ、プログラミングを体験した小学3年生は、「好きなことが2つとも出来て良かった」と喜び、話しました。市内在住の男性は、高齢者キットを付けて高齢者疑似体験に挑戦した市内在住の男性は、「高齢になると身体が重くなり、電車の乗り降りが大変になるんですね」と感想を話していました。学生たちにとっては、広く一般の人と触れ合うことでコミュニケーションの取り方を経験する良い機会になりました。



「Care&Idea」で新たな一歩を

今年度、本学は創立30年目を迎えます。ステートメント(声明)として掲げている「人をケアする精神」と「一人ひとりのアイデアと行動」に「向き合い、ともに進む」という姿勢を言葉に込めた「Care&Idea」のもと、地域社会の発展と人材育成に取り組んでいこうと、新たな一歩を踏み出します。

学科を超えて取り組む新たな挑戦「青い空フェスティバル2024」開催

— 短期大学の幼児教育・保育科と、大学の経営学科、理学療法学科が連携 —



本年度は、多くの学生たちが、学科を超えて様々な事業に取り組みました。その一つが、初開催となった「青い空フェスティバル2024」です。

「青い空フェスティバル2024」では3学科が連携し、会場も学外へ飛び出し、豊川市白鳥町のイオンモール豊川3階のイオンホールで、11月30日に開催しました。「青い空フェスティバル」は、短期大学部開学以来、幼児教育・保育科が行ってきた「青い空コンサート」をアップデートしたイベントで、幼児教育・保育科、経

営学科、理学療法学科の3学科が連携し、これまでになかった新しい形で開催しました。当日は、幼児や小学生など44人の子どもたちと、その保護者など80人が訪れ、会場は熱気に包まれました。

プログラム内容は、各科ごとに考えたうえで、学科を超えて協力し合い、経営学科の学生たちは「クイズで学ぶ身近なSDGs」と題して「ごみの分別」を考えるクイズを行い、幼児教育・保育科の学生たちは、創作ミュージカル「勇敢な兄弟と仲間の大冒険」を上演。理学療法学科の

学生たちは、会場の子どもたちみんなを巻き込んで「体をつかって脱出ゲーム」を行いました。

他学科との連携について、経営学科3年の学生は「良い刺激をもらった」と述べ、幼児教育・保育科2年の学生は「これまでにないステージになり、来場した子どもたちに楽しんでもらえてうれしい」と話しました。理学療法学科の学生は、「子どもとの接し方など勉強になった。社会に出てから役に立つと思う」と振り返りました。



経営学科による、クイズで「ごみの分別」



幼児教育・保育科による創作ミュージカル



理学療法学科の「体をつかって脱出ゲーム」

防災フェス2024「防災と手話」を考える

10月26日27日の創造祭で、「防災フェス2024」を開催しました。26日は、「防災と手話」をテーマに、手話体験講座や防災紙芝居「聴覚障害の困ること」が行われ、「なまず号」起震車体験も実施されました。27日は、国土交通省中部地方整備局豊川河川事務所、東三河総局、豊橋医療センターの協力で防災講演会が開かれました。手話体験講座は、幼児

教育・保育科と看護学科の1年生8人による手話サークル「HANDS」が主体となって実施。豊橋市愛市憲章ソングを、来場者とともに手話で歌いました。防災講演会では、豊橋医療センター外科系診療部長で、日本DMAT隊員の伊藤武医師が講演し、来場者に、「自分事として被災時の行動を考えるきっかけにしたい」と呼びかけました。



地域課題に挑戦!

— 経営学部経営学科 —

さまざまなテーマに取り組み、学び、成長する学生たち 「地域企業連携プロジェクト」活動成果発表会



2月7日、経営学部経営学科3年生が2024年度に取り組んだ「地域企業連携プロジェクト」の活動成果発表会が開かれました。連携先企業や行政機関の関係者、同大教職員、在校生らが参加し、6つのプロジェクトの成果発表が行われました。

プロジェクトは、「Coder Dojo 豊橋」、

「地域文化産業研究会(豊橋LAB)プロジェクト」、「財務報告研究プロジェクト」、「東三河エコタウン・プロジェクト」、「SOZO山岳研究プロジェクト」、「のんほいパーク盛り上げ隊」の6つ。学生たちは12分の持ち時間の中で、プロジェクト実施の背景と目的を示し、目標に向けて取り組んだ活動内容とその成果を発表



しました。

そのうちの「財務報告研究プロジェクト」では、「企業の財務諸表を追いつけることで企業の状況や取り組み、経営者の考えを知ることができた」と発表し、プロジェクト活動ならではの学びがあったことを報告しました。

中野聡教授は総評で、「さまざまなテーマと向き合い、仲間と協同して活動してきたこの一年は、多くを学んだ年になったと思う。こうした学修経験を力に、知的アイデンティティを形作ってもらえれば幸いです」と述べ、学生たちを激励しました。



子どもたちにプログラミングの楽しさを

今井ゼミ「CoderDojo 豊橋 & Hour of Code in 豊橋」

経営学科の今井正文教授のゼミでは、子どもたちにプログラミングの楽しさを伝える「CoderDojo 豊橋 & Hour of Code in 豊橋」を運営し、学生たちのプロジェクト活動として取り組んでいます。学生たちがメンターとなり、学内で定期的に開いている初心者向けプログラミング教室のほか、豊橋市内の小学校に出向いたり、各種イベントにも参加しています。毎

年1月に開催されている「青少年のための科学の祭典・東三河大会」には5年連続で出展し、初心者向けプログラミング教室は、大会の人気プログラムになっています。

夏休みに行った、「Hour of Code 夏休みプログラミング in 豊橋」では、プログラミング教材であるHour of Codeのマイクラフトを体験し、その後、マイクロビット、光るLEDバッジなどの電子工作、飛行ドローン

のプログラミング体験が行われました。

プロジェクトリーダーの永井啓哉さんは、「はじめの一步を踏み出すためのプログラミング道場です。コンピューターサイエンスの世界を楽しむきっかけになれば」と話しました。

自ら選択したテーマについて研究

経営学部2024年度卒業研究発表会

2月4日、経営学部2024年度卒業研究発表会が行われ、卒業を控えた4年生54人が、自ら選択したテーマについて、学修、研究した内容と、その成果を発表した。発表テーマは、経営・マーケティング、会計・財務、ICT(情報コミュニケーション技術)活用、社会経済や環境の問題など多岐に渡りました。

「Vtuber事業を運営する企業のメタバース事業参入への一考察」と題して発表した金井楓花さんは、Vtuber事業を

運営する一企業の経営戦略に焦点をあてて研究。「メタバース事業については、これからさまざまな資料やニュースが出てくると思う。社会に出てからもメタバース事業に注目したい」と話しました。

経営学部の鈴木宏幸教授は、「学生たちがZ世代になり、卒業研究のテーマにデジタル事業にかかわるものが多くなった。学生たちが、臆せず広い視野でグローバルに研究していく姿勢に、大いに期待したい」と期待を寄せました。



地域の健康を支える

看護学科「基礎看護学実習」

1年生の初めての病院実習に向けて
コミュニケーション演習実施

保健医療学部看護学科1年の「基礎看護学実習」の一環として、1月16日、学内で、模擬患者さんを相手にコミュニケーション演習が実施されました。2月に行われる1年生初めての病院実習に向けての学内実習で、昨年度からスタート。患者さん役には、本学の公開講座などを聴講している地域住民のみなさんの協力を得て行われました。

演習は1対1で進められ、学生たちは、模擬患者さんへのあいさつに始まり、病状



や入院生活について質問し、会話を重ねながらコミュニケーションを深めていきました。終了後、グループごとに振り返りが行われ、模擬患者さんからも気づいたことを伺い、病院実習に向けての心がまえを新たにしました。

山口直己担当教員は、「看護師にとっ



て多世代とのコミュニケーションは大切。模擬患者さんとの対話はリアリティがあり、学生たちのコミュニケーション力のアップに効果をもたらしている」と話し、「病院実習で、学んだことを発揮してもらいたい」と期待をよせました。

模擬患者さんらは、「医療従事者をめざす学生さんに興味があった」、「自分が患者になった時のことを考えて」など様々な理由で参加。今回は、50代から80代の方11人にボランティアとして協力いただきました。

理学療法学科 特定研修施設と連携講座

4つ病院と共催し、地域の人を対象に
「家族で学ぼう健康講座」開催

特定研修施設による公開講座「家族で学ぼう健康講座」が、11月2日から4回にわたって開催されました。高齢者を中心に、毎回、多くの人たちが受講。講演後の質疑応答も活発に行われ、一つ一つのテーマへの参加者の関心の高さが伺えました。

12月に行われた鷹丘クリニック「認知症と共に暮らす」では、田端主任作業療法士が講演。「認知症とは認知機能の

低下に伴ういろいろな症状の集まり」と説明し、「認知症は記憶障害だけではない」と強調。その上で認知機能を悪化させる危険因子や、認知症予備軍である軽度認知障害(MCI)について解説しました。参加者は、MCI度の目安となるチェックシートで自分の行動を確認。田端主任作業療法士は、「MCIは回復する場合がありますが、早期発見が重要」と述べ、「認知症は身近な問題。予防に努めましょう」と呼びかけました。



鷹丘クリニック 田端主任作業療法士

●開催された講座

- ・「日々の生活に運動を取り入れて、病気になる身体作りをしましょう」
講師／第二成田記念病院 片岡拓人理学療法士主任、他
- ・「認知症と共に暮らす
～早期発見と介護保険でできること～」
講師／鷹丘クリニック リハビリテーション部 田端勇麻主任作業療法士
- ・「お口の健康から身体の健康へ」
講師／総合青山病院 松下嘉泰歯科口腔外科部長医師
- ・「理想のBodyを目指して
～疾患別の食事注意点～」
講師／赤岩病院内科 平井和哉医師

スポーツ傷害予防教室

「運動と膝関節」をテーマに、講演と実技の2部制で開催

11月30日、本学で、「運動と膝関節」をテーマに、スポーツをしている子どもたちや、その指導者や保護者などを対象に「運動と膝関節」をテーマに、講演と実技を行いました。

第1部では、豊川市民病院整形外科の裴漢成医師が「東三河から始める運動器の未病へのアプローチ」と題して講演。図表や動画を見せながら、「怪我を



豊川市民病院整形外科 裴漢成医師

しにくい体のチェックの仕方、豊川高校サッカー部で実際に行っているチェックの仕方を紹介しました。

第2部では、「膝に負担をかけないため



に、大切なこと」と題して、医療法人整友会スポーツ班の理学療法士らが講演と実技を実施。膝関節に負担がかかる理由や運動連鎖について解説したうえで、身体の柔軟性の獲得と下肢・体感トレーニングなどを指導。参加者全員で体験しました。

地域の課題解決に挑戦

短期大学部キャリアプランニング科×サーラグループでSDGs活動

8月 「サステナブルな未来」を考えるSDGsワークショップ 「カレーの衝撃」



サーラグループとの連携・協力のもとにSDGs活動に取り組んでいる短期大学部キャリアプランニング科は、今年度も、継続して実施しているワークショップ「カレーの衝撃」を開催しました。会場はサーラグループのemCAMPUS STUDIO

です。

「カレー」を題材に「サステナブルな未来」を考えるSDGs活動で、市内外の大学生や会社員ら20人が参加し、自分の興味や関心、価値観、サステナブルな社会を意識しながらオリジナルカレーを考え、「SDGs」、「安心できる」、「わくわくする」の3つを満たすユニークなカレーを提案しました。

そのなかで20代社会人と学生とのチームが、「整うカレー」を発表。「サウナ」から発想し、ご飯に熱いカレーと冷たいカレーを並べて盛り付けるといったアイデアで、健康



と地産地消を意識した「心も体も整うカレー」に、多くの参加者が関心を示しました。

ワークショップ「カレーの衝撃」は、2022年から大学内外で実施され、8回目の開催。ファシリテーターを務める瀧崎優佳准教授は、「繰り返し実施することで毎回違った『カレーの衝撃』が起こり、熟成カレーになってきた」と講評しました。

12月 SDGsワークショッププログラム 「SDGs Do(ど)いいね」



「遊んで、作って、食べて、SDGsについて学ぼう」と題して、SDGsワークショッププログラム「SDGs Do(ど)いいね」をem CAMPUS STUDIOで開催。小学生から大人まで22人が参加し、遊

んで作って食べて学びました。

参加者は、キャリアプランニング科の学生たちとともに、SDGsすごろくやオリジナルバッグづくりを楽しみ、身近なSDGsについて共に考えました。

食品ロスについては、食育などを学ぶ学生たちが協力し、商品として市場に出せない食材でサツマイモカレーを作って提供。参加者は美味しく食べながら「サステナブル」な環境について考え、学びました。

参加者のうち小学3年生の女の子は、



「SDGsの15番（陸の豊かさも守ろう）をもっと知りたい。自然がなくなると、大好きな鳥や動物たちの棲み処（すみか）がなくなってしまうから」と答え、小学2年生の男の子は、「1から17番まで全部に興味がある」と述べ、「すべて達成したい目標」と発表すると、会場が拍手で湧きました。

12月 フラワーロスについて考えるSDGsイベント 「スマイルフラワー大作戦」



キャリアプランニング科とサーラグループ（豊橋市）とのコラボ企画「スマイルフラワー大作戦」の第2弾を、2024年の12月29日に、emCAMPUS FOODクラブハウスで実施しました。フラワーロスの花を使ってお正月飾りを作るワークショッ

プで、学生たちがスタッフを務め、地元企業から提供を受けた花材を使って実施しました。

ワークショップは、午前と午後の2回行われ、子どもから大人まで計16人が参加。SDGsの「つくる責任 つかう責任」を考えながらフラワーロスについて学び、商品としての役割を果たせなくなった花材と環境にやさしいバイオプラスチックで作られたタンブラーを使って、一人ひとずつ自由に正月飾りを作りました。

祖母と弟の3人で参加した中学1年生の姉は、「フラワーロスとはどういうことが



よくわかった」と述べ、小学4年生の弟は「使われないという花を活用できておもしろかった」と感想を話してくれました。

「スマイルフラワー大作戦」に携わった学生たちは、「家族みんなでSDGsについて考えるきっかけにしたらいいな」と話し、2024年度のSDGs活動すべてを終えました。

山岳研究パネル展 inイオンモール豊川 開催

経営学部経営学科の9人の学生が取り組んだSOZO山岳研究プロジェクトは、2025年1月13日から26日まで、豊川市白鳥町のイオンモール豊川で、山

岳研究パネル展を開催し、2024年度の活動成果を公開しました。学生たちは、地域の活性化を目的に、愛知県の山岳という天然の観光資源の魅力を「発見・発信したい」と活動。その結果を、写真を使って発表しました。今年度のプロジェクトでは、茶臼山高原、三ヶ根山、飯森山、石巻山を対象に、文献調査と現地調査（登山）を行いました。会場には、



豊かな自然が感じられるアジサイの花の写真をはじめ、地域の魅力を感じさせる写真をパネル展示しました。

「明るい社会作り 実践体験作文」 で表彰されました

愛知県明るい社会づくり推進東三河地区協議会主催の「明るい社会づくり実践体験文」で、本学の学科横断科目である「ボランティア演習」「ボランティア論」の受講者など4人の学生が各賞を

受賞しました。「豊川市議会議長賞」に短期大学部幼児教育・保育科1年生の山本結菜さん、「入選」に保健医療学部看護学科2年生の鈴木香名美さんと、短期大学部幼児教育・保育科1年生の狭石華澄さん、「奨励賞」に短期大学部幼児教育・保育科1年生の瀬口友里充さんです。そのうち「笑」という題で体験文を書いた山本結菜さんは、「ボランティアを通して感じた人と人との繋がり



笑顔がもたらす力について綴りました。これからは初心を忘れずにボランティア活動を続けていきたいです」と述べ、受賞に感謝しました。

エフエム豊橋で 「#盛り上げ隊!と のんほい語ろ」スタート!

経営学部経営学科の三輪・山口ゼミのプロジェクト「のんほいパーク盛り上げ隊!」の学生たちによるラジオ番組「#盛り上げ隊!とのんほい語ろ」がスタートしました。豊橋市の「やしの実FM」(エ

フエム豊橋)とのコラボで実現した生放送の情報バラエティ番組です。学生たちが、企画、制作、パーソナリティまで全プロセスを担当しています。初回放送となった2025年1月11日は、豊橋総合動植物公園ののんほいパークの魅力発信を続ける「のんほいパーク盛り上げ隊!」の活動を中心に報告。学生たちは、「のんほいパークにあまり行かなくなった方たちに、『なつかしいな』『今度行ってみようか



な』と思ってもらえるような、のんほいパークの楽しさを伝えたい」と意気込みを語りました。

豊橋市との連携事業 働き世代のための 「カラダ喜ぶ健康講座」 開催

2024年11月26日、本学で、とよはし健康宣言応援事業「働き世代のためのカラダ喜ぶ健康講座」を行いました。この講座は、豊橋市が「とよはし健康宣言事業所」の健康経営の取り組みをサポートするために企画している「応援

メニュー」のひとつで、2019年から実施しています。2024年度の講座は、本学保健医療学部理学療法学科で「生理学」等を担当する副学長の後藤勝正教授が担当しました。

テーマは、「若さと活力あるカラダを創る!〜適度に筋肉を鍛えましょう〜」。日常において適度な運動をすることの大切さを説きました。受講者からは、「筋肉のこと、ストレッチの仕方など、とても勉強になりました。やり始めてみようと思いました」な



どの声が聞かれました。本学は、地域の健康を支える大学として、働き世代を対象とした健康に資する活動にも積極的に取り組んでいます。



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
公務員別科

豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

